

平成30年度(平成29年度対象)

南あわじ市の教育 点検・評価

報 告 書



平成30年8月

南あわじ市教育委員会
南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会

目 次

はじめに	1
I. 次世代の人材を育てる教育	2
基本方針1 「確かな学力」の確立と自立して生きる力の育成	3
基本方針2 「豊かな心」を育成する道徳・人権教育の充実	7
基本方針3 体育・食育活動を通じた「健やかな体」の育成	10
基本方針4 安全・安心で、開かれた学校・園づくりの推進	12
基本方針5 教職員としての資質と実践的指導力の向上	15
基本方針6 遊びを通じた確かな「学び」を培う幼児教育の推進	17
基本方針7 安全・安心に過ごせる教育環境づくり	19
II. 活力と生きがいをはぐくむ教育	20
基本方針1 連帯社会の再生、家庭と地域の教育力の向上	21
基本方針2 体験を通して学ぶ伝統文化の香り高いまちづくりの支援	26
基本方針3 人権尊重の文化が根付くまちづくりの推進	32
基本方針4 運動に親しみ体力の向上をめざした生涯スポーツの推進	34
基本方針5 社会教育の指導者としての資質と実践的指導力の向上	35
III. 教育環境の変化に対応する取組	36
IV. 評価委員の意見	37

はじめに

南あわじ市では、「南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口、経済、地域社会の課題に一体的に取り組み、本市の人口減少の克服・地方創生に資する先進性・継続性のある取組を進めていっております。

教育委員会においても、平成27年度から5か年計画として「第2期南あわじ市教育振興基本計画」を策定し、平成29年度は、本計画に基づき「南あわじ市の教育方針」を定め、「ふれあい共生の人づくり」をテーマに、人権尊重を基盤とした教育・文化をめざした事業に取り組んでまいりました。

また、豊かな心と活力ある人材の育成を図るため、「知恵あふれ、ふるさと南あわじを大切に作る人づくり」をサブテーマとして、学校教育においては、「次世代の人材を育てる教育」、社会教育では、「活力と生きがいをはぐくむ教育」を基本目標に掲げ、それぞれ具体的な諸事業を推進してまいりました。

これらの諸事業を適切に執行するには、各事業が効率的に実施されているか、有効的に行われているかなど随時点検評価していくことが必要であると考えます。加えて、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条には、教育委員会行政事務の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することと規定されております。

こうしたことから、教育委員会では、課題や取組の方向性を明らかにし、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、市民の皆さんへ説明責任を果たすため、「南あわじ市の教育方針」に基づき平成29年度に実施した主な事業について点検評価を行い、その結果を報告書にまとめました。

なお、点検・評価実施にあたっては、評価内容の客観性を確保するため、学識経験者のご意見をいただいております。今後の教育行政に反映させていきたいと考えております。

また、教育委員会では、よりよい南あわじ市の教育の実現に向けて努力してまいりたいと存じますので、皆様の一層のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成30年8月

南あわじ市教育委員会

南あわじ市・洲本市小中学校組合教育委員会

I.次世代の人材を育てる教育

基 本 方 針

- 1 「確かな学力」の確立と自立して生きる力の育成
- 2 「豊かな心」を育成する道徳・人権教育の充実
- 3 体育・食育活動を通じた「健やかな体」の育成
- 4 安全・安心で、開かれた学校・園づくりの推進
- 5 教職員としての資質と実践的指導力の向上
- 6 遊びを通じた確かな「学び」を培う幼児教育の推進
- 7 安全・安心に過ごせる教育環境づくり

基本方針1 「確かな学力」の確立と自立して生きる力の育成

【重点目標】

- ① 調査・評価による実態把握に即した指導方法の工夫・改善に努め、個に応じた多様な指導の充実を図る。
- ② 基礎・基本の確実な定着を図り、興味・関心を持って、主体的に学習に取り組む姿勢を培う。
- ③ 豊かな体験活動や課題解決的な学習を通し、思考力・判断力・表現力等の育成・向上を図るとともに、知的活動やコミュニケーションの基盤となる「ことばの力」を育成する。
- ④ 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図る。
- ⑤ 教育活動全体を通じた組織的・系統的なキャリア教育の充実に取り組む。
- ⑥ グローバル化に対応した教育を推進し、語学力やコミュニケーション能力を育成する。

重点目標項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
① ②	新学習システム推進事業	小学校15校・中学校4校に、加配教員を配置し、個に応じた指導を推進した。(2～4年生の35人学級編制、「兵庫型教科担任制」、少人数授業等)	<p>【成果】</p> <p>2～4年生の35人学級編制においては、3校が2学級編制で調査・研究に取り組み、担任の指導が行き届き、学力の充実を図ることができた。また、中学校への円滑な接続を図るため兵庫型教科担任制を推進することにより、中1ギャップ解消などの効果が見られた。中学校においては、英語や数学等で少人数授業を行い、基礎・基本の確実な定着と学力向上に一定の成果を上げることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>指導内容や進度調整について効果的に打ち合わせを行う必要がある。少人数指導や同室複数指導の有効的な方法をさらに研究していく。</p>	学校教育課
②	南あわじがんばりタイム(学習支援)	全国学力・学習状況調査結果の分析・検証に基づき、学力向上に向けて、小学校11校において、地域人材を活用した放課後の学力向上方策に取り組んだ。	<p>【成果】</p> <p>市内11小学校で実施した。各校とも、児童の実態に合わせて実施対象学年や実施日数を決定し取り組んだ。基礎学力定着を目指し、漢字や計算等の練習を中心に行った。苦手で定着しにくい内容については下学年の内容を復習したり、理解が進んでいる内容については応用的発展的な問題を用意したりして個々の到達度に応じて個別指導を行った。</p> <p>【課題】</p> <p>希望者が多い場合は、個々のつまずきに応じた個別指導が難しい。学習教材の工夫と充実が必要であるが、学級担任の負担が大きくなっている。学習教材の準備や担任と講師の打ち合わせ時間をいかにとるか等、学校の実態に合わせた運営上の工夫が必要である。</p>	学校教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	
			成果・課題及び今後の対応等	担当課
③	なかよし音楽会事業	<p>市内16小学校410人の6年生が一堂に会し、4グループに分かれて合同合唱・合奏を披露した。</p> <p>また、フルート、ファゴット及びピアノ奏者による特別演奏を鑑賞した。</p> <p>事前にはグループごとの合同練習と講師招聘による研修会を行い、音楽による表現力の向上と指導力の向上を図った。</p>	<p>【成果】 市内全6年生が音楽を通じて学校間交流をすることで、音楽による表現力の向上・言語活動の充実が図られるとともに、市としての一体感を向上させることができた。また音楽会当日に向けた各校での練習、合同練習、講師による指導で、市全体の児童の技能向上や指導者の指導力向上も図っている。さらに基本的に同一中学校区でグループ編成することで、中1ギャップの解消に資する活動ともなっている。</p> <p>【課題】 小学校での学びが中学校での合唱に生かされるよう、中学校と連携を図り、互いの音楽会への出席や合同実技研修を進めていく必要がある。</p>	学校教育課
③	吉備国際大学との交流	<p>平成25年4月に南あわじ市に新設された吉備国際大学との交流を図った。</p> <p>近隣の小中学校とイベントを通しての交流を行った。</p>	<p>【成果】 地元の三原志知小学校とは、交流が続いており、大学生を運動会に招いたり、学園祭で和太鼓演奏を行った。学園祭では、西淡中学校の吹奏楽部も出演し、演奏した。</p> <p>その他、教職員研修を行う際の会場提供にも協力いただいている。</p> <p>【課題】 専門性の高い授業を提供していただける環境にあるので、今後は小中学校の発達段階に合わせた内容を依頼していきたい。また、教職員の研修においても、大学と連携していくことで、より専門的な研究内容を学ぶことができるので、研修の場を設定していきたい。</p>	学校教育課
③ ⑤	中学校体験事業	<p>中学校1年生を対象にキャリア教育の一環としてもものづくりへの関心を高め、本格的なものづくり体験を行った。</p> <p>また、わくわくオーケストラでは、本格的な音楽ホールで、プロのオーケストラの演奏を鑑賞した。</p>	<p>【成果】 将来の進路を考える上で重要な時期となる中学生が、実際に職人から技術を学び、ものづくりの魅力を味わい、職業について考えるきっかけを得られた。</p> <p>わくわくオーケストラでは、演奏を聴き、クラシックの名曲を通じてオーケストラの基礎や、コンサートでのマナーについて学ぶことができた。</p> <p>【課題】 プロの技に触れることで、技術の習得や生演奏の音楽を味わうことを体感できたが、事前学習や事後学習等でキャリア教育の視点で生徒に考えさせ、トライやるでの学びと合わせて、自身のキャリア形成につなげていけるようにさせていく必要がある。</p>	学校教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
④	特別な支援を要する児童生徒への対応	<p>特別支援教育支援員(市単)を25人配置し、特別な支援が必要な児童生徒への指導にあたった。 医療的ケアを2校で実施し、看護師を関係校へ派遣した。</p>	<p>【成果】 小・中学校において障害のある児童生徒に対し、食事、排泄、教室の移動補助等学校における日常生活動作の介助を行ったり、発達障害の児童生徒に対し学習活動上や生活面でのサポートを行ったりした。また、小学校2校において、学校、家庭、看護師と連携し安全に医療的ケアを実施できた。</p> <p>【課題】 個に応じた支援をスムーズに引き継ぐため、教育支援計画・指導計画をもとに関係機関の連携を密にしていける必要がある。</p>	学校教育課
④	小中学校特別支援学級交流事業	<p>市全体(1回)と3つのブロック(各1回)での交流事業を実施し、他校の児童生徒との交流や体験活動を行った。 また、淡路教育事務所 特別支援教育推進員を招聘し、子どもの社会的自立や進路を見据えた支援のあり方について保護者と共に学ぶ機会を持った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玉ねぎ染め、進路の話(南淡B) ・瓦ねんど作り、進路の話(三原B) ・砂遊び、水遊び(緑・西淡B) 	<p>【成果】 市特別支援学級交流遠足には、22校児童生徒57人、保護者43人、教職員33人、合計133人が参加した。 ブロック交流、市全体交流とも、校外で遊んだり活動する中で、児童生徒だけでなく保護者同士の交流ができた。</p> <p>【課題】 各児童生徒の課題は多種多様であり、教育・福祉・医療・労働等の関係機関の連携は欠かせない。将来を見据えた一人一人の支援内容・方法について、確実に引き継いでいける必要がある。</p>	学校教育課
⑤	トライやる・ウィーク推進事業	<p>事業所、地域、学校、家庭との連携を図りながら、子どもを育てる活動として、中学校2年生を対象に20年目を迎えた。 各中学校区におけるそれぞれの事業所で5日間の活動を実施した。</p>	<p>【成果】 中学校における進路指導(キャリア教育、職業教育)と関連づけて、事前指導・事後指導の充実を図り、生徒一人一人が自分たちの生き方を見つけていく契機となっている。 また、新規の協力事業所数の確保に努めるため担当者や事業所の代表者を集めて、トライやる・ウィーク推進会議を開くことができた。</p> <p>【課題】 この経験を活かして、事後も地域行事や地域の活動に参加するなどの活動「トライやる・アクション」は、数校でしか実施できていない。この事業で培われた地域の教育力を活用し、継続して実施校を増やしていく必要がある。</p>	学校教育課



小学校外国語の授業



がんばりタイム

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
⑥	外国語活動 支援員の派 遣・英語教 育の推進	<p>小学校各校に外国人英語指導助手(ALT)を配置し、義務教育段階でネイティブスピーカーの英語に触れ、外国人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と態度を養った。</p> <p>また、英語が話せる日本人「外国語活動支援員」(ST)の派遣は5年目となり、担当教員、ALTと協力し、授業の充実を図った。</p> <p>幼稚園・保育所においても、ALTを派遣し、「えいご遊び」を実施し外国の文化に慣れ親しむ活動を行った。</p> <p>市の英語教育推進委員会を立ち上げて、新学習指導要領の完全実施にむけて、カリキュラム作りをしたり教師の資質向上研修を実施したりした。</p>	<p>【成果】 小学校において、担任とALT・STが入って行う3人体制の外国語活動の授業が定着してきた。担任は授業全体を計画して授業を進める役を担い、ALTは英語の話すモデルとして、STは授業計画への助言や授業中の支援者として、授業が展開できている。STの配置により、児童一人一人が英語でのやり取りをする場面が増え、意欲的に英語に親しみ、会話を楽しもうとする児童が増えた。また、苦手意識がある児童に対しては、STが関わることできめ細やかな支援が可能となり、意欲を引き出すことができるようになってきている。</p> <p>外国語活動の早期化、英語科の実施にむけて、担当者だけでなくALTとSTも授業研究等に参加し、授業モデル案作りや教材作りに取り組んだ。STは、英語の指導経験の浅い教員の支えとなっている。</p> <p>【課題】 小学校外国語活動は、H30年度より移行措置として3・4年で15時間、5・6年で50時間実施する。外国語活動の内容に加えて、外国語科の内容も扱う。新学習指導要領に対応した新教材を使った授業づくりやALT・STを効果的に活用した指導方法の研究を進めていく必要がある。</p>	学 校 教育課
⑥	外国人講師 招致事業	<p>外国人英語指導助手(ALT)を各校に配置し、義務教育段階でネイティブスピーカーの英語に触れ、外国人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲と態度を養った。</p>	<p>【成果】 小学校ではALT配置体制を見直し、4名のうち2名を地元ALT、あとはJET-ALTとした。国からの普通交付税措置で、市の財政負担の軽減を図ることができた。また外国語活動の経験が豊富で日本語も話せる地元ALT2名がいることで、教委、学校、ALT、STと会議等を通して、より細やかなコミュニケーションを図ることができるようになり、JET-ALTへの研修や授業サポートも行うことで、児童生徒への指導力向上を図ることができた。さらに、各校の外国語活動の教材整備を行い、子どもたちが英語でふるさと自慢ができるように、外国語副教材「COOL AWAJI」を平成30年度実現化に向けて制作中である。</p> <p>中学校では、「読むこと」「書くこと」も含め、発音や英会話能力が向上でき、さらにレベルアップしたコミュニケーションが可能になった。また、過去のALTとのつながりを生かし、インターネットを使った国際交流を授業に生かす試みも一部の学校で行った。</p> <p>【課題】 ALTの入れ替わりがあるため、指導力向上を図るための情報交換や研修を活発にしていく必要がある。</p> <p>また、南あわじ市としての国際交流事業や地域等の学校以外にも積極的に関わり、学校での英語教育の成果を発揮できるような取組についても考えていきたい。</p>	学 校 教育課

基本方針2 「豊かな心」を育成する道徳・人権教育の充実

【重点目標】

- ① 郷土の特色を生かした豊かな経験を通して、生命や自然に対する畏敬の念を育む。
- ② 自尊感情を高め、自己実現と共生をめざす人権教育を推進する。
- ③ 豊かな情操や規範意識、自他の生命の尊重、他者への思いやりを育む道徳教育と道徳的実践力を培う。
- ④ 郷土の先人の生き方等地域の歴史を学び、ふるさと意識の向上を図る。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	
			成果・課題及び今後の対応等	担当課
①	小学校体験事業	<p>小学校5年生では、4泊5日の自然学校、3年生では3回から5回の校外での環境学習を実施した。</p> <p>自然学校では、全小学校で、防災に関するプログラムを開発し、実施している。淡路青少年交流の家を拠点に活動、南淡B&G海洋センターにてカヌーなどの海洋スポーツを体験した学校もあった。全小学校で、防災に関するプログラムを開発し実施している。</p>	<p>【成果】 自然学校では、多様なプログラムを通して自然を体感するとともに、集団生活の中で協調性や社会性、コミュニケーション能力を身につけている。また、防災学習を全校実施しており、体験活動を通して防災意識を高め、命のつながりを考えるきっかけとなった。</p> <p>また、環境学習では、各校区における自然環境に触れながら、地域住民の協力を得た多くの体験活動が展開され、ふるさと意識を持たせることができた。体験活動を通して自然に対する畏敬の念をはじめ、命のつながりや大切さを学ぶことができた。</p> <p>【課題】 環境学習では、命のつながりや大切さに焦点を当てたプログラムを開発する必要がある。</p>	学校教育課
① ④	ふるさと学習の促進～ふるさと副読本の活用～	<p>淡路ふるさと学習副読本「ふるさと淡路島」、あわじ環境未来島副読本「みらい」を活用して、ふるさと意識を育む学習に学校教育全体で取り組んだ。</p>	<p>【成果】 ふるさと副読本は、社会科や理科、総合的な学習の時間等の資料として、淡路島の地理や歴史・文化等の調べ学習に活用した。授業中のみならず家庭学習でも活用でき、ふるさと淡路島への関心を持つきっかけとなった。自然学校や環境体験の前後に副読本を使って学習することで、知識と体験が結びつき学びの質が深まり、地域を誇れる子どもの育成に役立った。</p> <p>【課題】 自分たちのふるさとである淡路島について学習を深め、いかにふるさと意識の醸成を図るかが課題である。そして、ふるさとの現状もとらえ、未来を考える子への育成を目指し、学校から家庭・地域へ積極的に情報発信をしていく必要がある。</p>	学校教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	
			成果・課題及び今後の対応等	担当課
②	帰国外国人 受入体制推 進事業	日本語の理解や会話が不十分な外国人児童生徒への学力保障等を目的に、学校へ外国人児童生徒支援員を派遣をした。 すべての児童生徒がわかりやすい授業作りを目指し、日本語指導と教科指導を統合し学習活動に参加するための力の育成を目指したカリキュラム開発を行った。	【成果】 日本語指導が必要な児童生徒に外国人児童生徒支援員を学校へ派遣して、日本語指導だけでなく異文化の生活の中で感じるストレスを和らげるとともに、保護者へ母語で通訳することで学校と家庭との連絡がスムーズにできるようになった。 また、湊小学校が、大学の先生を招聘し、「教科指導型日本語指導を取り入れた指導(JSL)」について研究を行い、授業公開を行った。	学 校 教育課
②	教職員人権 教育研修事 業	教職員の人権尊重の意識向上を図り、人権教育の進め方・実践力を身につけるための研修会を実施した。	【成果】 市内教職員の5割の参加を得て人権学習(「LGBT講演～自分らしく～」)を実施した。LGBTについて講師自身の体験をもとにした講演であり、教職員の人権意識を高めることができた。また、市内人権授業研究会を行い、低学年は湊小、中学年は市小、高学年は阿万小、中学校は倭文中で授業公開し、事後の授業研究でも活発な討議ができた。	学 校 教育課
③	兵庫版道徳 教育副読本 の活用	兵庫ゆかりの人物を取り上げた兵庫版道徳教育副読本を各学年ごとに年間指導計画に位置づけ、積極的に活用した。	【成果】 全小中学校において、学校教育全体の中で副読本を活用している。小学校は「特別の教科道徳」の実施に向けて、カリキュラムの見直しを行った。副読本の活用については、授業参観等で道徳の授業を公開したり、同副読本を持ち帰り、家庭においても読み合うなど、授業以外でも積極的に行った。	学 校 教育課



環境学習



自然学校で防災学習

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
③	夢プロジェクト事業	<p>著名なスポーツ・文化人の講師を招聘し、南あわじ市内小中学校の児童生徒にスポーツ・文化の良さや楽しさ、そして努力する大切さなどを感じてもらい、目標を大きく、また大きな夢を持って生きていくことを期待しより豊かな生活を送ってもらうことを目的に開催した。</p> <p>-派遣学校-</p> <p>俊文・三原・南淡・沼島・広田中学校 5校 神代・三原志知・賀集・福良小学校 4校</p> <p>-講師-</p> <p>卓球:平野早矢香 バレーボール:大山加奈 チアリーディング:梅花女子大学 体操:新島卓矢 音楽:クーリーハイハーモニー 和太鼓:中橋敏彦 野球:村上隆行</p> <p>※少年少女スポーツ指導者講演会開催 7種類5人 2グループ団体の講師を派遣した。</p>	<p>【成果】 市内5中学校と4小学校の9校へ著名なスポーツ・文化人を講師に派遣したが、実技を見て感動を覚えたようで、将来の夢を描くきっかけになったようである。</p> <p>【課題】 都市部に比べ、著名なスポーツ・文化人と交流できる機会が少ない子どもたちにとって、人材育成にはとても期待できる事業であるが、講師と学校との日程調整、また限られた予算内で講師を選択しなければならないことから、子どもたちの期待する講師陣のオーダーや講師との調整等に苦慮する。</p>	体育青少年課

夢プロジェクト事業



基本方針3 体育・食育活動を通じた「健やかな体」の育成

【重点目標】

- ① 運動に親しむ習慣や意欲を養い、体力・運動能力の向上を図る。
- ② 発達段階を踏まえた指導、安全の確保や休養の設定などにより、豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。
- ③ 健康で安全な生活を送るための基礎を培うとともに、家庭や地域と連携して食育の推進に取り組む。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課									
			成果・課題及び今後の対応等										
①	小学校体育事業	<p>小学校水泳検定会 市内16小学校の5年生以上の児童(761人)が参加。松帆・榎列・市・阿万の4校を会場とし検定会を実施した。</p> <p>実施種目 5年生:自由形・平泳ぎ・背泳(25m) 6年生:自由形・平泳ぎ(50m)背泳(25m)</p>	<p>【成果】 昨年度に引き続き、4校で検定会を開催した。各会場とも運営面での問題もなく、学校間で交流も図りながら検定会を実施することができた。本検定会を設定することで、児童は自己の記録に挑戦する目標を持つことができ、各校での水泳学習・水泳練習に積極的に取り組むことができた。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td><検定合格者></td> <td>自由形</td> <td>平泳ぎ</td> </tr> <tr> <td>6年生(50m)</td> <td>約80%</td> <td>約30%</td> </tr> <tr> <td>5年生(25m)</td> <td>約90%</td> <td>約30%</td> </tr> </table> <p>【課題】 学校水泳としての基準に基づき、児童の体力や安全面に留意しながら、検定基準や規則の見直しを毎年続けていく必要がある。児童の健康・安全については、当日の気象条件や児童の健康観察を徹底し、今後も最善の注意を払う必要がある。</p>	<検定合格者>	自由形	平泳ぎ	6年生(50m)	約80%	約30%	5年生(25m)	約90%	約30%	学校教育課
		<検定合格者>	自由形	平泳ぎ									
6年生(50m)	約80%	約30%											
5年生(25m)	約90%	約30%											
		<p>「かけっこマニュアル」を活用して、児童の走力向上を図った。(南あわじ市小学校体育連絡協議会) 南あわじ市小学校陸上競技大会には、市内16小学校の4年生以上1,218人が一堂に集い、陸上競技大会を開催した。 あわじっ子スポーツ大会(小学生陸上競技大会)島内の5年生以上(一部4年生、市内児童350人)が参加予定であったが、雨天中止であった。</p>	<p>【成果】 4・5・6年生の体力(走力・跳力・投力・持久力)の向上を高める指導を通して、児童の総合的な体力の向上を図ることができた。各校で「かけっこマニュアル」を活用したり、陸上指導の講師を招聘して、体育担当の指導力向上を図り、体育の授業において効果的な指導ができるようになった。陸上大会は運動に興味のない児童にとっても、仲間とともに目標をもって練習に励む体力向上の良い機会となっている。</p> <p>【課題】 運動に親しむ児童とそうでない児童の2極化が課題である。この事業を通して、主体的に体を動かして遊んだり運動したりする習慣につなげていくことが課題である。そして、子どもたちの生活習慣を把握し、体力運動能力テストの結果と関連付けながら、体力向上に向けた取組を継続していく。</p>	学校教育課									

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
②	体力アップ サポーター 派遣事業	<p>「体力アップひょうご」サポート事業の一環として、市内中学校の保健体育科教員を校区の小学校に派遣し、年間3回以上の体育授業を行い体力向上への取組を支援した。</p> <p>三原中学校教員を八木小学校に、南淡中学校教員を北阿万小学校に、沼島中学校教員を沼島小学校に派遣し、実施した。</p>	<p>【成果】 八木小学校、北阿万小学校では、陸上競技の授業、沼島小学校では器械体操、陸上競技を中心にした授業が行われた。専門的な内容を中学校教員が学齢に合わせて工夫した授業を行い、児童も意欲的に取り組み、運動への興味を高める事業となった。また、隣接する小・中学校の連携を図ることができた。</p> <p>【課題】 一連の授業をきっかけとして、日々の授業での実践や日常の運動習慣づくりにつなげていく必要がある。また、小中連携を目指した体育のカリキュラムづくりの展開を検討していくことも必要である。</p>	学校 教育課
③	食育推進事 業	<p>学校教育全体で食育を実践している。</p> <p>「弁当の日」を継続実施し、各校で特色のある取組を行った。</p> <p>和食・地産地消・食のマナーなど学校給食を活用して食育に取り組むとともに、学校給食に地場産物を活用しふるさとの味と食文化を継承していく。</p>	<p>【成果】 各教科や特別活動等と関連づけながら学校教育全体で食育を行っている。農業体験で育てた野菜で料理を作ったり、いずみ会と連携して地場産物を活用した料理作り等に取り組んだ。各校とも、「弁当の日」が定着し、家庭と連携して食育を進めている。</p> <p>また、学校給食地場食材利用拡大事業を展開し、学校給食に地元の野菜や近海で採れる魚介類を提供した。昨年度は、はじめて三年トラフグを提供し、生産者の思いにふれ、ふるさとの自慢の食を味わった。</p> <p>【課題】 家庭において、和食や伝統料理の継承が難しくなっている。手軽に食べ物が手に入る生活環境の中で、いかに学校教育の中で、食に関する実践力をつけるかが課題である。</p>	学校 教育課



体力アップサポーター派遣事業



地場食材拡大事業

基本方針4 安全・安心で、開かれた学校・園づくりの推進

【重点目標】

- ① 学校評価システムの充実を図り、地域に信頼される学校・園づくりを進める。
- ② 幼・保・こども園、小、中、高、大の連携を一層深め、家庭や地域との絆を強め、安全な環境で、安心して生活を送ることができるよう実践を進める。
- ③ 子どもの内面理解に基づく生徒指導の充実を図り、いじめなどの問題行動に的確に対応する指導体制を整備し、未然防止や早期発見、早期対応に取り組む。
- ④ 家庭・地域・関係機関との連携をより深め、自らの生命を守る能力や態度を育むため、地域の災害に備えた防災教育を推進する。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
①	学校評価の実施	幼稚園・小中学校において、学校評価の取組を実施した。 (自己評価、学校関係者評価、評価の公表等)	【成果】 各学校・園で、学校自己評価とその公表、学校関係者評価とその公表が実施されており、評価結果を教育活動の改善につなげるPDCAサイクルが定着している。あんしんネット、学校だより・メール配信等により学校の情報を広く知ってもらった取組が進んだ。 【課題】 学校評価や関係者評価での意見を活かし、さらに地域との連携・協働を深めていく取組を充実させていく必要がある。また、あんしんネットでの配信は頻繁に行われているが、HPを分かりやすくする必要がある。	学校教育課
②	小中連携の推進	中1ギャップを解消するため、各中学校区で授業体験や母校訪問など工夫した取組をしている。 キャリア教育の視点にたち、カリキュラムやキャリアノートの活用について小中の連携を図った。	【成果】 交流事業により、6年生が中学校を身近に感じることができるようになり、中学校生活への不安を軽減することができた。また、キャリア教育の全体計画・カリキュラムを共有し、目指す児童生徒像を確認することで9年間を見通した指導を行うようになった。 【課題】 9年間を見通した教育目標をもとに、小中教職員の共通理解のもと、各中学校区ごとの推進協議会を充実させていく必要がある。	学校教育課
② ④	自然学校における防災教育の取組	市内全小学校の5年生が、自然学校において、震災・学校支援チーム(EARTH員)や市役所危機管理課員等を招くなどして、各校で工夫した防災学習に取り組んだ。	【成果】 避難所体験活動(段ボールで就寝スペース作成、就寝)や校区の防災マップ作り、防災オリエンテーション、災害食作りなど体験活動を通して防災について考えることができた。 【課題】 自らの命は自らで守る力を身に付ける従来の安全教育に加え、人間としての生き方・あり方を考える防災教育を推進していく必要がある。	学校教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
② ③	学校運営支援対策員事業	学校生活にうまく適応できない児童生徒への対応について、各学校と連携し、「学校運営支援対策員(警察OB、教員OB)」が支援を行った。	<p>【成果】</p> <p>課題を抱える学校を訪問し、児童生徒・保護者への対応や関係機関との連携の在り方について指導助言を行い、円滑な学校運営につなげている。本年度は、延べ410回の学校訪問を行い、支援を行った。</p> <p>【課題】</p> <p>組織的に学校支援に取り組むため、各教育関係機関との連携を更に深めなければならない。</p>	学 校 教育課
②	幼稚園・こども園ウィーク活動事業	『親子ふれあいフェスティバル』及び『造形展』の実施(幼稚園・こども園4園の交流)	<p>【成果】</p> <p>講演会では、現役看護師の話聞くことで、保護者にとっては、具体的な看護方法や子どもの病気について、聞くよい機会となった。また、親子ふれあい遊びでは、ゲーム遊びやリズムに合わせて体を動かす活動を通して、親子が十分に触れ合えるいい時間となった。笑顔で遊び、言葉を交わす姿が見られ、親子関係を深めることができた。</p> <p>商業施設での展示となった造形展は、保護者や地域の方々に幼稚園教育の一端を見ていただく機会となり、園児の豊かな感性に関心を抱いてもらうことができた。</p> <p>【課題】</p> <p>保護者対象の講演会と親子で体を動かすふれあい遊びの2事業を進める中で、園児にとっては友達と遊ぶ時間と親と遊ぶ時間があり、活動にメリハリができてよかったが、季節柄保護者の講演会時の寒さ対策も考えなければならない。また、一つの会場で2事業を進める時の内容の検討が必要である。</p> <p>商業施設での作品展示のため、幼児の造形・絵画表現力を一般の方にも観覧してもらえたので、今後の継続を希望していく。</p>	学 校 教育課
②	通学路安全推進会議の取組	各道路管理関係機関、学校代表、保護者代表、警察が、通学路安全推進会議において、学校における予備点検箇所について精査し、合同点検を実施し、整備・改善を行った。	<p>【成果】</p> <p>各校における通学路の予備点検により、登下校時の危険箇所を洗い出し、学校における対策を講じると共に、各道路管理者によって整備・改善が図られ、通学路の安全性を高めることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>安全整備に十分な予算の確保が必要なことと、様々な条件により整備に時間を要する場合があるので、危険箇所を精査し、優先順位を決めて取り組んでいく必要がある。</p>	学 校 教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	
			成果・課題及び今後の対応等	担当課
②	子ども安全対策	市内の小中学校と幼稚園、さらに今年はこども園、保育所(園)、放課後子ども教室、学童保育にも登録を拡げ、不審者情報や緊急防犯情報をメールで一括配信する「こどもあんしんネット」で情報を発信した。	<p>【成果】 放課後子ども教室、学童保育、こども園や保育所(園)の登録が追加され、各学校園等の予定や行事等も併せて、緊急を要する不審者情報や緊急防犯情報をメール発信し、安全対策の基盤となる家庭・地域との情報共有に効果を上げている。各学校園等からの情報提供手段として定着しつつある。保護者だけでなく、祖父母などにも登録対象者が広がっていることなどにより登録者数は昨年度末に比べて1,752人増加して8,735人となり、緊急時の連絡対応に大きな効果を上げている。</p> <p>【課題】 登録者については、地域づくり協議会との連携を図りながら、地域住民にも広げる必要がある。</p>	学校教育課
③	いじめ問題対策連絡協議会・対応委員会	南あわじ市いじめ防止プロジェクトを全小中学校で実施した。 いじめ問題対策連絡協議会に、学識経験者、保護者代表、学校代表、地元警察、人権・福祉等関係機関を委員に委嘱し、市のいじめ防止にかかる取組について協議を行った。	<p>【成果】 各校とも児童生徒が主体となって、いじめ防止の活動を行った。教師からの指導に偏らず、児童生徒の側からもいじめと向き合うことができてきた。いじめ問題対策連絡協議会では、本市の現状といじめ防止に向けた学校における取組方針について共有し、いじめのない学校づくりについて積極的な意見交換を行い、学校への啓発を行うことができた。</p> <p>【課題】 インターネット、スマホでのいじめ等、いじめの実態が把握しにくくなっている。その中で、いじめの積極的認知ができるように学校と保護者・地域・関係機関の連携をさらに密にして対応していく必要がある。</p>	学校教育課
④	防災教育の推進	中学生を対象に防災ジュニアリーダー研修や東北ボランティア活動を行った。各学校において、それぞれ独自の取組を実施した。 また、拠点避難所部会を開催し、市職員・市教委・EARTH員と避難所運営の確認を行った。 11月に、阿万小学校が県のメイン会場となり、総合防災訓練を行った。 舞子高校と教育協定を締結し、防災出前授業を6校で行った。	<p>【成果】 防災ジュニアリーダー研修や東北ボランティア活動を通じて、防災への知識や意識が高まった。舞子高校生による防災出前授業は、児童にとって心に残るものとなった。また、定期的な防災訓練に加え、地域と連携した防災訓練に参加することにより防災対意識を高めることができた。</p> <p>【課題】 防災計画・避難訓練の効果的な活用を図り、自分で考え判断し行動する児童生徒の育成を目指す。学校管理下外での実践力の育成が課題である。家庭・地域・関係機関と連携が欠かせない。</p>	学校教育課

基本方針5 教職員としての資質と実践的指導力の向上

【重点目標】

- ① 教職員としての高い使命感・倫理観を保持し、豊かな人間性の涵養に努める。
- ② 幅広い視点からICTを意図的・計画的に活用するなど、教育効果の向上をめざし、絶えず研修を深める。
- ③ 社会の変化に対応した教育観を培い、教育の専門家としての感性豊かな実践的指導力の向上を図りながら、子どもに対する愛情と責任感を持ち、体罰に頼らない心の通い合う指導に努める。
- ④ 初任者をはじめ、若手教職員の研修を充実させる。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	
			成果・課題及び今後の対応等	担当課
① ② ③	教職員研修 事業	<p>学力向上 ゆずりはプロジェクト事業開始(H28～H30) H29実施校 7校 西淡志知小・辰美小・榎列小・八木小・三原志知小 南淡中・広田中</p> <p>小中学校教職員のグループ研修及び各学校における課題研修等、その取組に応じて、支援を行った。</p>	<p>【成果】 ゆずりはプロジェクトの実施校においては、各校で研究テーマを設定し、専門家とともに授業研究等を行った。授業研究会は市内に広く周知し、教職員の研修の場を広げることができた。 また、実施校以外においては、本市の教職員研修事業を活用し研修を積んだ。学校の研究テーマや新たな課題に対応する授業力の向上、特別支援教育の充実等を目的とし、16の学校(グループ)が活用した。</p> <p>【課題】 今後求められる新たな学びの指導方法等について、関係機関等の協力を得ながら、新教育課程の実施に向けて授業・評価の改善のための研修を実施し、教員の指導力向上を図っていく必要がある。</p>	学 校 教育課
① ② ③	学校経営自 主研修会	<p>学校経営の後継者育成を大きなねらいとし、2グループに分けて年間10回程度の研修会を開催した。</p>	<p>【成果】 各学校における教育の取組について意見交換を行うとともに、教育の今日的課題を解決するための方策について研究、協議し、次代を担うリーダー育成に寄与することができた。女性を含めた多くの教員が積極的に参加し、研修する体制が定着してきた。</p> <p>【課題】 近年、管理職が不足する事態が予想されるため、中堅教員の資質をより高め、主幹等のミドルリーダーを育てる必要がある。</p>	学 校 教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
① ② ③	人権教育授業研究	<p>道徳教育と人権教育研究プロジェクトをもとに、幼保・小中・高等学校間の連携、共通理解のもと発達段階に応じた共通教材の選定、系統的な授業公開・授業研究の交流に努め、子ども同士により豊かな人間関係や人権意識の変容を図った。</p> <p>小学低学年 湊小学校 小学中学年 市小学校 小学高学年 阿万小学校 中学校 倭文中学校</p>	<p>【成果】 小中学校授業研究会では、研究校が中心となり学識者とともに資料開発や授業研究を行った。研究後は、南人教が発行する「南人教プロジェクトだより」で学びを共有した。小学校高学年部会では、講師から部落史を学び、人権DVDや人権絵本などを活用して中学校へつなげる部落問題学習に取り組んだ。 また、南あわじ市人権教育・道徳教育推進委員会を開催し、「特別な教科 道徳」中での人権教育の推進について共通理解を図った。</p> <p>【課題】 多様化する社会において、取り組むべき新たな人権課題は多い。情報化が進む中、SNSで何気なく発信した情報が人権侵害になるなどのトラブルも起こっている。児童生徒に更に寄り添った研修を取り入れ、教師一人一人が人権感覚を磨き、家庭・地域とともに学び続けていく必要がある。</p>	学校教育課
① ④	初任者研修	<p>初任教員に対して、「学級経営」、「生徒指導」、「ふるさと学習」、「児童理解」を柱に、全3回の研修を行った。</p>	<p>【成果】 校長OBである学校教育指導員による講義、地域の方によるふるさと学習の実践の研修、また、スクールカウンセラーによる児童生徒理解研修や適応教室見学など、教師としての見識を広めるとともに、資質向上を図ることができた。</p> <p>【課題】 今後も、南あわじ市のことを知る研修に力を入れたい。また、学校教育において取り組まなければならない課題が増えており、研修内容について検討を行っていく必要がある。</p>	学校教育課
②	教育用コンピュータ管理	<p>安全・安心かつ効率的に機能するように適切に保守管理を行うとともに、情報セキュリティ等教職員の研修を行った。 また、次年度に予定する学校支援システム(グループウェア・校務支援)導入の準備として、各学校担当者と協議・調整をよく行い整備計画を作成し、予算化を図った。</p>	<p>【成果】 コンピュータとその関連機器の保守管理とともに、情報セキュリティ研修でトラブル事例なども紹介し、情報漏えいのリスクについて意識向上を図った。ウイルス感染は数件あったが、いずれも迅速な対応と報告があり、成果が出ている。 また、タブレット機の導入により、無駄のない、時代に即応した授業が可能となった。</p> <p>【課題】 教職員の校務にかかる負担を軽減するため、学校支援システム(グループウェア・校務支援)の導入を早急に進めていく必要がある。 また、ICT教育(ICTを利用した情報教育)の方向性(小中学校でのICTを活用した授業への取組)について検討する必要がある。</p>	教育総務課

基本方針6 遊びを通した確かな「学び」を培う幼児教育の推進

【重点目標】

- ① 発達や遊びの連続性を踏まえた教育の充実を図る。
- ② 幼・保・こども園、小の連携及び交流活動を通して、円滑な接続を行う。
- ③ 幼児の直接的・具体的な体験活動を通して、伝え合う力の育成や自立と協同の態度を培う。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
①	PDCAサイクルに基づく保育	幼児の発達を見通した創意ある教育課程の編成・実施 特別な支援が必要な幼児の指導（園内委員会においての実態把握や支援方法などの探求）	<p>【成果】 日々の保育記録の積み重ねが、幼児の内面を捉えようとする教師の姿勢につながり、子どもの良さや可能性が引き出され、自信をもって行動する確かな成長が見られるようになった。特別支援コーディネーターを中心に職員間で共通理解を図るための話し合いや研修への参加を通して、合理的配慮の観点を視野に入れ、適切な支援への取り組みを進めた。</p> <p>【課題】 教育目標の実現に向け、また園の実態を踏まえて具体的な指導計画の作成や園内研修の充実に努めていく必要がある。</p>	学 校 教育課
②	こども園・幼小連絡協議会	円滑につながる、こ幼小接続の充実と体制作り（年2回各校長、園長が集まり、交流計画や連携について意見交換）	<p>【成果】 こ幼小交流内容について、お互いに意見や情報交換を細かく話し合うことができた。特に、幼稚園教育要領改訂の実施に向けての話し合いをすることで、幼児教育への理解が得られ、こ幼小の関係性の大切さを感じた。また、幼稚園において『生きる力の基礎』や『学びに向かう力』を支えていくために、幼児と向き合いどう育てるか見直し、内面理解に努めることの重要性を感じた。</p> <p>【課題】 幼児と児童との交流の場を広げるだけでなく、職員が互いに授業保育の参観をすることで、どんな力や学びがつながっているのか、理解し合うことが必要である。保育内容の充実を図りながら、小学校への滑らかな接続に取り組む姿勢を大切にしていかなければならない。</p>	学 校 教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
③	豊かな体験活動	直接体験や感動体験を通して、自立に向かう姿の育成、ふるさとの自然や文化に親しみ、ふるさとを愛する心を育てる取組を行った。	<p>【成果】 身近な自然に直接触れて遊ぶ体験や感動体験をする中で、教師や友達と心を弾ませ遊びを展開していくことは、幼児の心を豊かにし、様々な気付きや学びを積み重ねることにつながった。また、豊かな体験活動を経験することで、自信をもって行動する姿が見られるようになり、自立心を育てることができた。</p> <p>【課題】 幼児期に体験すべき大切な学びの環境を整え、協同する経験や発達を捉えた保育の展開ができていないか見直していかなければならない。また、地域に積極的に出かけ、幼児や保護者に良さを伝えていくことでふるさとを愛する心が育つようにするとともに、保護者が楽しんで子育てができる場となるよう支援していくことが大切である。</p>	学 校 教育課

直接体験・感動体験



基本方針7 安全・安心に過ごせる教育環境づくり

【重点目標】

- ① 小学校への空調設備の整備を実施する。
- ② 子どもたちが安全で安心な学校生活を送れるように、小・中学校施設の改修等を行う。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
①	小学校空調設備整備事業	<p>今年度は、第2期工事として、辰美(10教室)、八木(9教室)、市(14教室)、賀集(10教室)小学校4校の整備を実施した。</p> <p>また、H30年度第3期工事予定の4校(倭文、神代、北阿万、阿万小学校)の実施設計業務を行った。</p>	<p>【成果】 年間を通して快適な学習環境を整えることで、児童や教員らの満足度と学習効果の向上を実現できた。 これにより、児童の学力アップと教師のより効率的な授業展開が期待される。</p> <p>【課題】 適正な空調の運用管理の徹底により、学習環境の保全と省エネに努める必要がある。 また、学習環境の改善により、これまで制限してきた授業時間の見直しと調整を要す。</p>	教育総務課
②	小・中学校施設の改修	<p>今年度、広田中学校校舎大規模改造工事(第1期)を行った。</p> <p>また、H30年度予定の広田中学校校舎大規模改造工事(第2期)の実施設計業務を行った。</p>	<p>【成果】 広田中学校にて校舎の大規模改造(老朽)を実施したことで、どの児童生徒も安心して学校生活を送れるようになった。</p> <p>【課題】 老朽化で大規模改修を早期に行いたい学校が他にもあるが、財政的な課題もあり、小学校の空調整備を優先的に行っている。</p>	教育総務課

Ⅱ.活力と生きがいをはぐくむ教育

基 本 方 針

- 1 連帯社会の再生、家庭と地域の教育力の向上
- 2 体験を通して学ぶ伝統文化の香り高いまちづくりの支援
- 3 人権尊重の文化が根付くまちづくりの推進
- 4 運動に親しみ体力の向上をめざした生涯スポーツの推進
- 5 社会教育の指導者としての資質と実践的指導力の向上

基本方針1 連帯社会の再生、家庭と地域の教育力の向上

【重点目標】

- ① 家庭の教育力の向上を図るため、学習機会の提供と子育て支援の充実を図る。
- ② 「地域のおじさんおばさん運動」等のネットワークづくりを活用して、子育て家庭への見守りや青少年の健全育成に努める。
- ③ 地域の連帯意識を高めるため、異年齢や異世代とのかかわりを通して、自主性や創造性・社会性を育む体験活動、学校支援活動の充実を図る。
- ④ 「早寝・早起き・朝ごはん」運動や「あいさつ運動」を進める。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
①	家庭学習の手引き作成事業	<p>子どもの望ましい学習習慣や生活習慣の形成に向けて、「家庭学習の手引き」を作成し、学校と家庭との連携を図った取組を行った。</p> <p>また、『南あわじっ子に確かな学力を！』のリーフレットも配布し、家庭学習の大切さを伝えた。</p>	<p>【成果】 子どもの発達段階に応じて、家庭学習の時間や方法、生活習慣の形成に係る内容を手引きにまとめてあり、家庭の教育力向上に取り組めた。</p> <p>【課題】 保護者に対しては、学習習慣や生活習慣の形成が重要であることを引き続き啓発していく必要がある。また、「家庭学習の手引き」により、子どもが主体的に家庭学習に取り組めるように、保護者と連携していくことが大切である。</p>	学校教育課
①	家庭教育推進事業	<p>就学前児童の保護者を対象に、臨床心理士による「各発達段階における子どもとの接し方」について研修会を開催した。</p> <p>また、連合PTA事業として、子育ての家庭の教育力向上を図るため、食育を主テーマに家庭教育フォーラムを開催した。</p>	<p>【成果】 市内小学校6校が利用。就学前児童の保護者への研修会では、各発達段階の心の変化への対処方法を研修し、心の悩み等をいち早く発見し、早期対応能力の向上につなげることができた。</p> <p>家庭教育フォーラムについては、保護者だけではなく、学校関係者や自治会など多くの参加者を得、栄養士から食育に関する現代の食生活について様々なアドバイスを受け、日常の多くの課題を再認識する機会となった。</p> <p>【課題】 学校での教育相談に関する事業が、充実していることもあり、臨床心理士による研修会を実施する学校は少ない傾向にある。就学前児童の保護者を対象とした研修は実施時期が限られているので、周知を図る時期を早める等、検討する必要がある。</p> <p>家庭教育フォーラムでは、子どもたちを取り巻く現代社会の環境変化の激しさをすばやくとらえ、課題解決に向けどのように対応していくのかといったテーマを設定する等の取り組みが必要である。</p>	社会教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課												
			成果・課題及び今後の対応等													
① ③	放課後子ども教室事業	地域の方の協力を得て、体験・交流・遊びを通し、子どもたちが安全で健やかに過ごせるように居場所を提供した。	<p>【成果】 異年齢による工作・クッキング・楽器演奏・合唱・スポーツ・遊び等、様々な体験プログラムを提供したり、国立淡路青少年交流の家の遊びリンピックに参加し、充実した時間を過ごすことができた。</p> <p>湊・辰美教室では、学童保育所との一体型運営に向けて試験的に合同プログラムを実施し、導入に向けての課題点などを検証した。</p> <p>昨年度を上回る回数、児童が参加した。以下のとおり。</p> <table border="1"> <tr> <td><比較></td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> <td>増減</td> </tr> <tr> <td>総開催数</td> <td>326回</td> <td>341回</td> <td>↑ 15回</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>4,317人</td> <td>5,200人</td> <td>↑ 883人</td> </tr> </table> <p>【課題】 学童保育との一体型運営を進める上での諸問題や修正点の解消。</p>	<比較>	28年度	29年度	増減	総開催数	326回	341回	↑ 15回	参加人数	4,317人	5,200人	↑ 883人	体育青少年課
<比較>	28年度	29年度	増減													
総開催数	326回	341回	↑ 15回													
参加人数	4,317人	5,200人	↑ 883人													
① ③	放課後児童健全育成事業(学童保育)	保護者が労働等によって、昼間家庭にいない小学生に対して、遊びや生活の場を集団保育として提供し、児童の健全育成を図る目的で、市内13校区で実施した。 未開設校区の湊・辰美小学区の学童保育所の開設。	<p>【成果】 未開設校区であった湊・辰美小学校内に学童保育所を開設した。開設スタート時の登録人数は、湊2人、辰美6人であった。</p> <p>市内13校区(学校内11か所、公民館1か所、私立こども園内1か所)にて実施。登録者は全体で平均267名の利用があり、昨年度の平均より約1人の減少となっている。これは、未開設であった、湊・辰美開設に伴う人数が伸びず、例年に比べ夏休み以降子どもが一人で留守番できるようになり、学童を必要としない児童が増加により退所者が増加したためである。</p> <p>未開設校区の西淡志知小学校区及び三原志知小学校区において、ニーズ調査を行ない次年度の方針を決定した。</p> <p>支援員確保については、広報やハローワーク等で募集を行なった結果、3名の支援員等を雇用した。</p> <p>【課題】 支援員になるためには、資格や免許が必要であり、募集して依然として集まらない状態である。新規学童開設をした関係で更に必要支援員数が増加、また特別な支援を要する児童の入所が増加し、それに対応する支援員が必要となってきている。</p>	体育青少年課												

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課												
			成果・課題及び今後の対応等													
① ③	土曜チャレンジ教室	<p>地域の多様な経験や技能を持つ人材等の協力により、土曜日や長期休暇等に体系的・継続的なプログラムを計画・実施した。</p> <p>放課後子ども教室開催校を対象にした土曜教室を16回、夏休みチャレンジ教室を8日間、市内児童を対象にやまの学園を12日間開催した。</p>	<p>【成果】</p> <p>土曜日や長期休暇ならではの多様なプログラムや体験学習、継続的なプログラムを実施することで、子どもたちに経験の場を提供し世代間交流を支援することができた。</p> <p>課題であった定員を超えた教室の対応について、土曜チャレンジ教室は、午前の部と午後の部に分けて実施し、抽選漏れを作らないようにした。その結果、昨年度を上回る児童が参加した。</p> <table border="1"> <tr> <td><参加人数></td> <td>28年度</td> <td>29年度</td> </tr> <tr> <td>土曜チャレンジ教室</td> <td>177人</td> <td>261人</td> </tr> <tr> <td>夏休みチャレンジ教室</td> <td>20人</td> <td>20人</td> </tr> <tr> <td>やまの学園</td> <td>25人</td> <td>25人</td> </tr> </table> <p>【課題】</p> <p>参加希望者が多い、やまの学園定員25人のところ申込40人、夏休みチャレンジ教室定員20人のところ申込33人、定員を増やしたいが、施設及びスタッフの制限で大幅に増やすことができない。</p>	<参加人数>	28年度	29年度	土曜チャレンジ教室	177人	261人	夏休みチャレンジ教室	20人	20人	やまの学園	25人	25人	体育青少年課
<参加人数>	28年度	29年度														
土曜チャレンジ教室	177人	261人														
夏休みチャレンジ教室	20人	20人														
やまの学園	25人	25人														



おやつ作り・放課後子ども教室



ハロウィン工作・放課後子ども教室



スラックライン・土曜チャレンジ教室



やまの学園

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
②	青少年育成 センター 事業	<p>青少年に関わる機関・団体が意見交換できる場、また学習する機会として青少年健全育成市民会議を開催した。</p> <p>また、街頭補導活動の充実、「地域のおじさん・おばさん運動」の推進、学校・地域・関係機関との連携強化を図る活動を展開した。</p> <p>南あわじ市スマホ・ネット推進委員会を開催し、市内小中学校の全児童生徒に南あわじ市スマホルール等の啓発リーフレットを配布した。</p>	<p>【成果】 非行を未然に防ぐため、年間を通して青少年補導委員による一斉街頭補導活動や地域のおじさんおばさん運動等を継続している中で、青少年を有害な環境から守り、非行化を未然に防止するものとなっている。 ・市民会議参加者 約200人（補導委員） ・街頭補導回数 106回 ・活動延べ人数 593人</p> <p>【課題】 インターネットの利用に関して未熟な青少年を犯罪から未然に防ぐため、ネット利用の危険性や家庭内でのルール作りなど必要な情報を提供してきたが、今後さらに関係機関・団体等と情報の共有、連携を図りながら、より巧妙になる犯罪の手口から子どもを守っていくため、見守り活動の展開、また周知を図ることが必要となっている。</p>	青少年 育成セ ンター
③	青少年健全 育成事業	<p>青少年教育の一環として、様々な体験活動を通じ、地域の教育力向上と青少年の可能性を広げる事業を展開した。</p>	<p>【成果】 B&G海洋教室においては、親と子のふれあいキャンプなど9日間開催し、述べ162名の児童生徒が参加した。また、様々な団体約500名を受け入れ、その中でも児童養護施設の子どもたち61名を対象にしたプログラムも実施し、普段体験する機会の少ない海洋性レクリエーションを体験することで子どもたちの社会性、主体性を育むことに寄与した。 わんぱく塾事業では、夏休み期間を中心にした講座実施から冬休みにも講座を開設し、合計18事業32講座を実施し、延べ1086名の参加者を迎えた。複数講座への受講生を除いた実参加者も675名となり、市内の小学校における児童数が2400名を下回る現状で、相当数の児童が参加し開催を楽しみにしている事業へと発展している。特にデイキャンプやナイトウォークといった事業では廃校となった小学校を活用しての開催という事で、地域住民による積極的な協力も得られ、地域の活性化へも繋がる成果を得られた。これは沼島での体験学習や四万十川源流探検などでも同様の成果が得られた。 また、商工部局との協力や防災教育など幅広く学習に取り入れている。他にもボーイスカウト活動等も青少年教育の一環として取り組んでいる。 安全面への配慮から指導員の確保が課題となっていたが、ボーイスカウト活動助成を実施する中で、アウトドア活動経験豊富なスカウト指導者を積極的に指導員として協力して頂ける関係になったことで、これまで以上に事業展開の巾が広がった。</p> <p>【課題】 海洋性レクリエーションの機会を増やすために指導員のみならず活動を支えるサポーターが重要であるが、人員確保に苦慮している。</p>	体育青 少年課 ・ 中央 公民館

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
④	食育推進事業	<p>連合PTA事業として、市内各小学校1年生の保護者を対象に、給食試食会を実施した。</p>	<p>【成果】 保護者が実際に学校給食を食べることにより、地産地消、安全安心への理解を深めることができ、家庭での食生活を考える機会となった。</p> <p>【課題】 今後も給食試食会を実施することで、食生活について考える機会を増やすとともに、地域と学校との連携をさらに深め、食育についてともに考え、語り続けていく取組が必要である。</p>	社会教育課



わんぱく塾：サイクリング



わんぱく塾：デイキャンプ



わんぱく塾：四万十川源流探検



わんぱく塾：ミステリアスナイトウォーク

基本方針2 体験を通して学ぶ伝統文化の香り高いまちづくりの支援

【重点目標】

- ① 伝統文化の継承を支援し、子どもたちの伝統文化への関心と理解を深めるとともに、発表の機会を提供するよう努める。
- ② 文化財の保存と文化施設の活用を図り、地域に密着した学習・情報拠点としてのサービス機能の向上に努める。
- ③ 市民の生きがいづくりを支援するため、ライフステージに応じた学習機会の充実や、学習成果を生かすことができる機会、情報の提供などに努める。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
①	伝統文化の 伝承	<p>淡路人形浄瑠璃をはじめとし、市内で継承される伝統文化の保存伝承の支援・発表会など、後継者育成に努めた。</p> <p>また、淡路人形浄瑠璃体験教室事業補助金により、淡路人形浄瑠璃を多くの児童生徒が鑑賞できる機会を創出した。</p>	<p>【成果】 淡路人形浄瑠璃体験教室事業では、6団体462名の利用があり、淡路人形浄瑠璃の魅力を発信できた。</p> <p>子ども伝統芸能発表会では、今般の少子化の中、15団体約300名の出演があり、出演者数は減少となったものの、出演団体数は増加となったことにより、郷土芸能への関心が伺われる。</p> <p>【課題】 郷土芸能の保存伝承については、小・中学校等との連携を図りながら、後継者育成に取り組んでいるが、社会体育や文化活動への参加など多様化し、減退傾向にあるとともに、後継者不足・指導者不足といった課題をかかえる団体が増加している。伝統芸能の保存伝承活動のためには、伝統芸能を体験できる事業を増やし、伝統芸能に触れたことのない人に魅力を発信する必要がある。また、保存団体間の交流の場を作り、情報交換をする必要がある。</p>	社会 教育課
①	資料館事業	<p>市村六之丞座の諸道具一式をはじめ、主として淡路人形浄瑠璃に関する資料等の収集・保存と調査研究を目的とし、淡路人形をはじめとする郷土の伝統と文化について、地域住民の理解と関心を深めるための学習、文化活動の場を提供した。また淡路島内外において淡路人形浄瑠璃の観光PRにも役立てた。</p>	<p>【成果】 来館者数5,215人、団体見学59組を数えた。展示や各種講座、解説・講演などを通して、淡路人形浄瑠璃の文化的価値を、広く地域住民や観光客に発信した。特に、市内小学校の課外授業で来館の折、児童に対し淡路人形の歴史等について指導した。また、人間国宝 鶴澤友路師匠が所有していた床本などの資料について、今後、資料館等での展示事業に活用できるよう大阪市立大学の久堀教授と協同研究を実施した。</p> <p>【課題】 資料を安全に保存・管理するための収蔵庫の燻蒸作業や日常の環境管理を計画する必要がある。また、発掘収集した資料や写真記録については、調査が終了したものから適正な整理並びに分類方法を計画し、実施する必要がある。</p> <p>淡路人形浄瑠璃の歴史的な紹介だけではなく、淡路人形座への誘導、人形芝居鑑賞につながる取組が必要である。</p>	社会 教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
	② 美術館事業	<p>南画界の第一人者、直原玉青画伯の絵画展示を中心に館蔵品展を3回、特別展「立原えりかのグリム童話絵本原画展」、また、松帆銅鐸に関する「淡路島のぶろんず展」を開催した。夏休みには、子どもワークショップ事業を開催する等、市民のための芸術・文化活動を推進し、生涯学習の活性化を図った。</p> <p>また、観光及び文化振興の拠点としての運営を行った。</p>	<p>【成果】 特別展「立原えりかのグリム童話絵本原画展」では、朝日小学生新聞で掲載された童話作家のパイオニアである立原えりか先生の文に25名の有名画家が絵を添えた原画展を開催。会期55日入館者数667人。</p> <p>「淡路島のぶろんず展」では、淡路島から発見された青銅器、青銅製品を中心に古いものから順に展示。会期中には、ギャラリートークを2回、ワークショップ「ミニチュアの松帆銅鐸、古津路銅剣を作ろう！」を開催。子どもから大人まで、市民をはじめ全国からの来場者に対し、南あわじ市の歴史遺産の魅力を発信することができた。会期50日、入館者数806人。</p> <p>夏休み期間中に開催した小学生を対象としたワークショップ事業やミニチュアの松帆銅鐸鑄造体験には、親子や祖父母との参加者が多く、本事業を通じ、世代を超えた創作活動の魅力を体験する機会を提供することができた。</p> <p>【課題】 夏休み期間中に多目的室を活用した小学生を対象としたワークショップ事業は定着してきたが、今後は、友の会会員や大人向けのワークショップ事業の実施や市民グループ等の展示、創作活動等の利用について広くPRし、利用者層の裾野を広げ、施設利用の促進を図る必要がある。</p> <p>多目的室で日本遺産や松帆銅鐸に関連した展示をしているが、市民に対し十分に周知できていないので、有効な広報、展示内容の更新や情報発信に更なる工夫が必要である。</p>	社会 教育課



松帆銅鐸鑄造体験



淡路島子古代フェスティバル大型松帆銅鐸絵本

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
②	文化財の保護	<p>(1)指定文化財の保護 南あわじ市文化財保護審議会に意見を求めながら、市内に有する文化財の保存・管理及び伝承に努めた。 また、文化財保護のみに留まらず、文化財を活用し、文化財を通して南あわじ市の歴史を知り、郷土愛の醸成を図る事業の実施を行った。</p>	<p>【成果】 市内の未指定文化財の価値を南あわじ市文化財保護審議会のもと調査検討し、指定に向け方向性を確認し、今後の適正な保存・管理のための計画を推進することができた。 また、市民講座を実施することで、南あわじ市を深く知り郷土愛を育むことができた。</p> <p>【課題】 現在、市内には国・県・市指定文化財が78件、国登録文化財が11件、市指定候補10件と多数の文化財が存在するため、今後、適正な保存管理のため、よりきめ細かな状況把握に努め、計画的な保存・管理対策を講じていく必要がある。 淡路島日本遺産の認定に伴い、市内に点在する構成文化財を有効に活用するとともに、特に松帆銅鐸の普及啓発については、庁内各課と横断的に協力し、その手法を検討する必要がある。</p>	社会教育課
②	埋蔵文化財の保護	<p>(2)埋蔵文化財の保護と公開 ①埋蔵文化財調査について 国衙地区本発掘調査3,777㎡ 養宜地区確認調査448㎡ ほか9件の調査を実施した。 ②松帆銅鐸について 調査研究委員会の開催 科学分析調査の実施 講演会、住民対象のワークショップの開発・開催、SNSを使用した情報発信を実施し、調査研究・普及啓発を推進した。 ③教育・普及活動について 勾玉づくり、ミニチュア銅鐸铸造体験のワークショップを開催 平成25年度調査年報を発行した。 市内3会場での埋蔵文化財速報展の開催とパンフレットの製作、養宜地区から出土した貨泉の記者発表、国衙地区の記者発表と現地説明会を開催した。</p>	<p>【成果】 国衙地区の木辺遺跡の本発掘調査において、官衙(役所)に関係する可能性の高い建物や古墳時代の祭祀跡が確認された。養宜地区は前年度から始まった確認調査が終了し、包蔵地範囲が明らかになった。今年度から始まった片田地区の確認調査については、次年度も引き続き確認調査を行う。 松帆銅鐸については、『淡路島のぶろんず展』や古代淡路島フェスティバルの開催により、南あわじ市民のみならず全国的に着実に松帆銅鐸の名前が浸透してきていることを再確認した。また、民間の関連商品の開発も進み、イベント等での販売も好評である。铸造体験では松帆銅鐸ひいては南あわじ市の歴史に関心を高めることができた。 今年度は年報の発行、また展示会の開催とパンフレット製作、記者発表により、市内の埋蔵文化財調査の研究成果を発表した。</p> <p>【課題】 松帆銅鐸について、国県の補助金を活用し、調査研究等を計画的に実施しているが、銅鐸が地元にないため、情報発信・普及啓発を進めており、小学生がいる世帯には浸透しつつあるが、高齢者世帯への啓蒙普及の工夫が必要である。また、展示施設整備計画を進めなければならない。 圃場整備事業に伴い、埋蔵文化財調査が平成30～33年度にかけ、飛躍的に増加する。平成30年度は養宜地区および国衙地区の本発掘調査において、民間への調査委託を実施し、事業との調整を図る。</p>	社会教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
②	南あわじ音楽祭	<p>市民が国内最高峰の演奏家によるクラシック音楽を鑑賞する機会として、南あわじ音楽祭を企画した。</p> <p>①第6回南あわじ音楽祭 東京フィルハーモニー交響楽団のトップメンバーによる演奏会を開催した。</p> <p>②ハートふれあいコンサート 南あわじ市で音楽活動する個人や団体が、その活動成果を発表する場としてのイベントを開催した。</p> <p>①②それぞれの会場では、南あわじ市出身の物理学者で純正調オルガンの発明者・田中正平博士の功績を、小中学生でも読めるように工夫したパネルを作成、展示し、啓発グッズも配布するなど普及啓発した。</p>	<p>【成果】 音楽祭の入場者数420人。クラシックコンサートに関する簡単なマナーについて、注意喚起をしたことにより、昨年度よりも観客のマナーが向上していたように思われる。 ハートふれあいコンサートを開催したことで、出演団体間の交流が活発になった。来場者は、多様なジャンルの音楽に興味や関心をもち、新たなことに挑戦したいという気持ちが芽生えた子どもたちがいた。</p> <p>【課題】 現在、音楽祭はクラシックがメインであるが、それ以外にも南あわじ市民で発表の機会がない人たちが気軽に参加出演できる場をさらに増やし、音楽をはじめ広く文化活動をしている個人や団体が市内でも実施しやすい雰囲気づくりをしていく必要があると思われる。</p>	社会教育課
②	図書館資料の充実	<p>市立図書館と3公民館図書室(中央・広田・湊)の運営では、図書館協議会の意見を活かしながら、蔵書の充実や利用者へのサービス向上に努めている。また、次年度よりの図書館のあり方について検討した。</p>	<p>【成果】 蔵書数300,589冊、図書館年間貸出冊数は延べ218,268冊、貸出利用人数は延べ55,539人で前年度よりわずかに減少しているが、図書館が市民の生涯学習の場・交流の場として機能している。</p> <p>【課題】 図書館サービスの根幹である蔵書の収集・保存・提供を充実するため、市民の学習活動の支援や読書活動に役立つ資料の収集、選書を検討し、利用者へのサービスが低下しないように配慮する必要がある。 また、カウンター業務において、よりきめ細やかな接遇の向上を図りたい。</p>	社会教育課
②	子ども読書活動の推進	<p>子どもの読書への意欲・関心をより高めるため、各種読書活動を実施した。</p>	<p>【成果】 「おはなし会」、「ブックスタート」、図書館フェアの「絵本づくり教室」等を実施することにより、多数の親子が図書館を訪れることができ、本と触れ合う機会を提供できた。</p> <p>【課題】 本に親しむ環境に導くために、子どもたちを図書館に招き入れる仕組み作り、創意工夫が必要であり、POP等、独自のアイデア、事業を検討していく必要がある。</p>	社会教育課

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
③	文化団体育成事業	南あわじ市文化協会を中心とした市民の文化活動に助成を行うとともに、各種文化団体の運営等、その活動を支援した。	<p>【成果】</p> <p>文化協会の連携による、ふれあい文化芸能祭を中心に、各地区公民館などが実施する文化祭など、多くの市内住民が参画する機会を提供することができた。29年度は、淡路人形の魅力を生で触れ、今後の育成発展の為、淡路人形浄瑠璃鑑賞会を実施した。</p> <p>【課題】</p> <p>文化協会の自主活動の推進がうまくいっていない部分がある。又組織の若返りと体制強化を推進する必要がある。</p>	中央公民館
③	学習機会の提供(公民館事業)	中央公民館・広田・福良地区公民館においては、教養・健康・実用等の講座26講座、中央公民館において短期講座12講座を実施した。	<p>【成果】</p> <p>各公民館での独自性のある講座開催により、多様化した学習内容の学習機会を提供することができた。子ども向け講座や短期講座を開講し、各世代がより多く受講できるように工夫した。また、21地区に設置している地区公民館と連携し、芸術文化の振興を図ることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>参加者の高齢化が進んでおり、魅力的な講座を企画し、公民館活動の若返りと、普段公民館の利用の少ない若年層の活性化を図る必要がある。また、短期講座でニーズの大きかった講座については、継続・拡充した公民館講座としても考えていきたい。</p>	中央公民館



公民館活動

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
	アジア国際 子ども映画 祭	<p>小・中・高校生を対象に、「学校の先生」をテーマとして、3分間の映像作品を募集した。</p> <p>映画制作を通して、子どもたちの協調性や責任感を養い精神的な成長を望むとともに、「子どもたちの心に内視鏡を入れよう」というコンセプトのもと、9月30日「アジア国際子ども映画祭 関西・四国ブロック大会(予選大会)」を開催した。また、上位受賞3作品については、11月25日に開催された北見市での本選大会に出品された。また受賞者は、北見市に招待され引率を行なった。</p>	<p>テーマは「学校の先生」</p> <p>子どもたちが作った映像及び大会開催に至るまでの協議や意見交換を通じて、子ども達の心の声に耳を傾けるきわめて有意義な機会となった。映画制作に参加する動機や取り組みの過程が重要であり、子ども達にとっては、作品の制作を通して各々の達成感や自信につながったとの声を聞くことができ、青少年育成の意義、目的に寄与できた。</p> <p>市内12作品のほか、兵庫県内、徳島、三重、奈良からの応募も含め、合わせて26作品が集まった。審査員からは回を重ねるごとに提出される作品の質が向上しているとの講評もいただいた。</p> <p>また、本大会に招待された子ども達は、カーリングなどの体験を通じて、アジア各国・地域の子も達と交流を図ることで友好を深めるとともに、国際的な視野・他国の文化を知る貴重な経験の場を提供できた。</p> <p>【課題】</p> <p>子どもだけで映像作品を制作するという関わりが難しい事業であるが、本市において、31年度本選大会開催に向けて青少年の育成に寄与することを重点に置いた事業として、過去の作品を教育現場での活用や人形浄瑠璃などの伝統芸能を取り入れた新たな事業展開が求められる。</p> <p>また、31年度の本大会を開催に向けての組織等の受入体制の構築と市民への認知度向上を図ることが重要である。</p>	体育青 少年課
③	高齢者大学 うずしお学 園	<p>南あわじ市在住で60歳以上の方を対象に、豊かな老後生活と個人の学習意欲を高めるとともに、相互の親睦を図り、さらには地域での指導者として、生きがいのある生活基盤を構築できる手助けとなることを目的とする事業である。</p>	<p>【成果】</p> <p>一般教養講座の充実を図り、1年間を通したテーマに沿った学習を心がけるようにしたことで、受講者の出席率も平均で63%と高止まりするようになった。受講生数は205名と毎年増え続ける中で、すべての講座へ参加した皆勤賞受賞者が51名となり、例年30名程度であったことから見て、非常に多くなった。</p> <p>【課題】</p> <p>うずしお学園講座が自己研鑽や趣味の集いという福祉の場から、高齢者大学で学んだ事を社会貢献や地域活動に繋げたりするなど、高齢者の活躍できる社会づくりを目指すための教育の場となるように改善を図ることが求められる。</p>	中 央 公 民 館

基本方針3 人権尊重の文化が根付くまちづくりの推進

【重点目標】

- ① 共に生きるまちづくりに向け、地域で起こる身近な人権問題に対し、正しい認識を培い、主体的な行動を促す人権学習を進める。
- ② 一人一人の個性が大切にされ、人権尊重の文化に満ちた社会の創造に努める。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
①	人権啓発の推進	<p>人と人が温かくふれあい、つながりの輪を広めることを目的に、8月は人権文化をすすめる県民運動推進強調月間、12月は人権週間に合わせ、人権フェスティバルを開催し、啓発活動を推進した。</p> <p>また、世代間、宗教など様々な異なる価値観を、互いに理解し合うことを目的として、高齢者大学(うずしお学園)との共催で講演会を実施し、幅広い世代の啓発の機会とした。</p>	<p>【成果】 当市で啓発が最も遅れているLGBTについて、正しく理解するために、当事者の講師を招き講演会を開催した。人権週間中のフェスティバルでは人権作文の表彰式と代表者による朗読で、子どもたちが自分の生活をしっかりと見つめ、体験を通して感じ、書いた作文の内容を、大人が聞くことにより学ぶ好機となった。 幅広い年齢層向けで啓発を実施したこともあり、人権意識が広く浸透したように思われる。</p> <p>【課題】 人権文化を推進するためには、継続的な啓発事業が必要である。講演会や地区別学習会等では、参加者を増やす工夫を講じなければならない。 多種多様な人権問題に対し、世の中にあふれている情報を「正しく知り、正しく行動する」人権啓発の充実に取り組まなければならない。</p>	社会教育課



外国人技能実習生に学ぶ



人権フェスティバル

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
			成果・課題及び今後の対応等	
②	人権教育の 推進	(1)地区別人権学習会 身近な生活の場において、解決すべき人権課題があることに気づき、部落差別をはじめあらゆる人権問題の解決に向けた学習活動を実施した。	<p>【成果】</p> <p>人権問題が多様化、複雑化している現在社会において、正しい理解と認識を深めるための学習機会を設けた。</p> <p>地区別学習会では、障害者差別解消法で掲げられている「合理的配慮」で物理的、意識的バリアを無くし、障がい者にやさしいまちづくりの推進への学習の機会とした。</p> <p>法律を学ぼう！は市民講座と市職員の研修を兼ね、正しく知り正しく行動することを目的とした。総合戦略の一環として、幼・保・こ園と連携し、保護者に身近な人権問題に対して、正しい認識を持っていただく機会の提供を行った。</p>	社会 教育課
		(2)人権学習講座 差別解消三法の施行により、教育・啓発が地方公共団体の責務となっていることから、法律の内容を知り、私たちにできることを考える講座。情報化社会により、SNSへの投稿が容易になり、人権侵害の被害者にも加害者にもならないための講座を実施。	<p>【課題】</p> <p>地区別学習会は、全地区研修会開催ができていないのが積年の課題である。「知識を得ること」で少しでも障がい者に接する勇気が持てた」との感想もあり、差別解消三法制定の意義を踏まえた、継続的な学習が必要である。引き続き、役員と連携を密にし、人権意識の向上を促すよう取り組む必要がある。</p> <p>近年の急激な情報化社会の進化により、保護者や教職員が想像している以上に、子どもたちがネット上で知らない大人とつながっている現状を知るためにも、子育て世代の研修を継続的に実施しなければならない。「人権尊重の人づくり、まちづくり」に向け、より多くの市民が関心を持てる、また、多様な人権課題に気づくための講座や、身近な人権課題に取り組む必要がある。</p>	



法律を学ぼう



教育講演会

基本方針4 運動に親しみ体力の向上をめざした生涯スポーツの推進

【重点目標】

- ① 気軽にスポーツを楽しめるよう環境整備に努めるとともに、地域に根付く多様なスポーツ活動の推進を図る。
- ② 豊かなスポーツライフを実現し、体力の向上と地域コミュニティづくりに活かす。

重点目標項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	
			成果・課題及び今後の対応等	担当課
① ②	市民スポーツの振興	市民スポーツの核となる社会体育施設・学校体育施設を市民に開放している。平成29年度においては賀集スポーツセンターの大規模改修、昨年度に引き続き、B&G海洋センターテニスコート2面の改修工事等の環境整備を実施した。また、スポーツ推進委員等を中心としたニュースポーツ普及活動等を市内で実施した。	【成果】 社会体育施設・学校体育施設とも環境整備を随時進めている。賀集スポーツセンターの大規模改修工事を実施したことにより、施設をより安心に快適に利用できるようになった。	体育青少年課
		【課題】 スポーツ施設の環境整備、建物等の安全性の確保は当然のことながら、人口減少・少子化に関連し、長期的な視野に立ったスポーツ施設の維持管理・再編計画の整備が急務である。ついでに、使用料・減免基準の見直しや財源財源確保も重要な課題と考えている。南あわじ市における持続可能な市民のスポーツ環境の構築をめざす。		
① ②	体育協会大会の開催	南あわじ市体育協会に所属する14種目協会それぞれが実施する14大会(委託事業)を開催し、普及活動の一環としてスポーツ教室(テニス・ペタンク)を実施した。また市体育協会直営事業としてランニングフェスティバル・スポーツフェア等を実施した。29年度は元プロサッカーの加地・木場両選手を迎え、講演会・サッカー教室を実施した。	【成果】 種目協会による14大会を定期的に継続して実施している。また、体協主催事業全体では年々参加者人数が増加しており、市民のスポーツ・体力づくりへの関心の高さが伺える。スポーツ教室や講演会を行い、スポーツの普及活動や青少年育成にも力を入れている。	体育青少年課
		【課題】 南あわじ市では種目協会登録チームや少年少女スポーツ団体の減少、統廃合が進んでいる。体育協会が中心となり各種大会を継続的に実施し、スポーツ練習成果披露の場を確保したり、また、スポーツを始める動機付けとなるような魅力ある大会の実施について検討が必要である。		
① ②	温水プール運営事業	平成20年度から5年間指定管理を終了し、引き続き25年度から(株)エヌ・エス・アイを指定管理者として運営委託している。水泳を通しての市民の体力向上、健康促進を図った。自主事業として幼児から大人までの水泳教室を実施した。競技力向上にも力を入れ全国大会出場者も輩出している。	【成果】 指定管理者による効果的な運営がなされ、吊天井改修工事も完了した。	体育青少年課
		【課題】 建設から26年経過し、躯体、電気設備が老朽化している。特に電気設備は耐用年数を大幅経過し、安全性に問題が発生する懸念があり、修繕年次計画し、施設整備が必要である。		

基本方針5 社会教育の指導者としての資質と実践的指導力の向上

【重点目標】

- ① さまざまな個人の要望や社会の要請に応える専門的指導者の育成に努める。
- ② 学校・家庭・地域の連携を支える指導者の育成やネットワークづくりを進め、地域の教育力の向上に努める。

重点 目標 項目	事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	
			成果・課題及び今後の対応等	担当課
①	社会教育活動事業	市内に指導者としての資質を有する人材を発掘し、指導の機会などを提供すると同時に、指導者交流の機会などを通じて、人材の育成や資質の向上に努めた。	【成果】 公民館講座、伝統芸能保存伝承、放課後子ども教室、子ども映画祭等、生涯学習の各分野で市内の指導者としての人材を活用し、教育活動に参画させることができた。	社会教育課・ 体育青少年課
			【課題】 事務局は社会教育活動に参画できる人材を、いつまでサポートし、その先どう自立させていくかを中長期的に検討したのち事業を始める必要がある。また、継続事業はいつまでサポートすべきかを検討する必要がある。	
②	学校支援地域本部事業	学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもたちを育てるため、地域住民に学校支援ボランティアとして協力要請をし、市内小中学校の各種授業等の運営を支援している。また、専門知識を持つボランティアがゲストティーチャーとして専門的(栄養指導等)な講義を行った。	【成果】 校外学習(町探検)の引率、校内マラソン大会の安全管理、小学1年生の下校時の見守り引率等、児童の安全のため、校外での安全指導を支援してきた。 また、家庭科授業では製作(エプロン、ナップザック等)、調理実習補助を支援してきた。 ゲストティーチャーとして、ブラインドサッカーの体験授業等を実施した。 課題であったボランティアの確保や活動を広く周知することについて、ボランティアが必要な小学校区に募集のチラシを配布や活動状況のチラシを各学校へ配布し活動内容の周知を図った。 その結果、ボランティア登録人数は、平成28年度は、141人であったが、平成29年度は、151人の10人の増加だった。 また、活動回数は、平成28年度は123回から成29年度139回となり、学校からの依頼件数も増加傾向にある。 実施小中学校も平成28年度は、13校から平成29年度は、16校と増加した。	体育青少年課
			【課題】 引き続きボランティアの方に地域差があるため、各地域、校区で活動可能な新たな地域ボランティアの確保に向けて、活動を広く周知することが必要であるとともに「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」を進めていくうえで、市民交流センターと協力しながら地域と学校が連携・協働する体制を構築していく必要がある。	

Ⅲ. 教育環境の変化に対応する取組

◆教育委員の活動

1. 毎月、定例会議を開催した。
2. 総合教育会議を2回開催した。
3. 県主催研修会等、9回の研修会に参加した。
4. 小学校8校、中学校3校の学校訪問を実施した。

◆教育施設再編に向けての取組

1. 小中学校の再編に向けて、該当校区の地域の方々への説明会を4回開催した。

◆教育環境の整備

【学校教育施設】

1. 小学校4校(辰美・八木・市・賀集)に空調設備設置工事を実施した。
2. 大規模改造工事の実施
 - ・広田中学校 大規模改造工事(1期)
3. 校舎等営繕工事を実施した。
 - ・(小学校)小学校床研磨工事外 23 件
 - ・(中学校)倭文中学校雨漏り等改修工事外 6 件

【社会教育施設】

1. 中央公民館駐車場拡張工事を実施した。
2. 湊地区公民館大規模改修工事に着手した。
3. 北阿万地区公民館耐震補強・大規模改修工事を実施した。
4. 吹上浜野外教育センター場内車道舗装工事を実施した。
5. B&Gテニスコート(A・Bコート)改修工事を実施した。
6. 阿万スポーツセンター駐車場舗装工事を実施した。
7. 阿万スポーツセンター旧トイレ撤去工事を実施した。
8. B&G体育館自動火災報知機更新工事を実施した。
9. サンプル吊天井撤去等改修工事を実施した。
10. 賀集スポーツセンター体育館耐震改修工事を実施した。
11. 文化体育館 トップライトガラス・サッシ外枠取替工事を実施した。

IV. 評価委員の意見

南あわじ市教育に関する事務の点検及び評価委員会委員

野 口 積
近 藤 宰 常
郷 野 祐 佳

(学校教育について)

- がんばりタイム事業については、各学校のニーズに合った取組となるよう工夫し、先生方には指導力をつけ理想的である「分かる授業」に努めていただき、「勉強ができるよろこび、わかるよろこび」を味わえる授業となるよう努力されたい。
- 新学習システム推進事業、特別な支援を要する児童生徒への対応については、学校現場において、非常に効果を上げられる取組であるため、今後も更なる充実を図っていただきたい。
- 外国語活動に関して、S Tの派遣等、活発的に取り組んでおり、子どもの学力向上につながっているため、引き続き事業の継続に努力されたい。
- 夢プロジェクト事業について、「子どもに夢を持たせる」という素晴らしい取組を実施しており、一般の方にも新聞掲載等により情報発信すれば、もっと成果を上げられると思われるので、広報活動等の工夫により、更なる充実を図っていただきたい。
- 小学校体験事業の海洋スポーツ体験について、県下でも少ない海洋センター施設が南あわじ市にあるということで、もっと施設利用していただいたら、南あわじ市が良いところであるPRができるのではないかな。
- いじめ問題対策について、児童生徒が主体となって、いじめ防止活動を行ったということは、非常に素晴らしいことである。各校のアイデアを取り入れながら今後もいじめ問題対策に取り組んでいただきたい。
- 多様な子どもたちに対応していかないといけない時代であるため、先生方の視野を広げていただき、サテライト講座等により、いろいろな知識・対応の仕方等を身に付ければ、より良い学校経営に繋がると思われるので、努力していただきたい。
- 幼児教育は大事ということを言われているので、もう少し幼稚園・こども園等を巡回する機会を持っていただきたい。
- 子どもたちが安全で安心な学校生活を送れるように、今後とも学習環境保全に努めていただきたい。

(社会教育について)

- 文化財の啓発活動が非常に大事だと思われるので、地域・関係機関と連携しながら、効果的な啓発活動を今後も期待する。

- 歴史の授業等で松帆銅鐸等を取り入れるなど、子どもたちが歴史ある地元に誇りを持てるように、今後の事業展開に期待する。

- 人権啓発の推進についての **LGBT** に対する理解について、学校の先生方にも **LGBT** の視点を持つことが必要だと思われる。先生方への研修、また市民の方にも研修・学習会等を通じて理解度を深められる人権啓発に取り組んでいただきたい。